

1 学校として目指す授業

・児童が問いをもち、主体的に学習に取り組む授業 ・児童が学び合いの中で互いのよさを認め合い、協働的に学習する授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
<p>国語では「情報の扱い方に関する事項」で、正答率が95.4%と高く、東京都平均(88.8%)および全国平均(86.9%)を大きく上回っている。一方、「漢字の書き直し」の問題では正答率が47.7%と低く、東京都平均(48.9%)や全国平均(43.4%)と同程度にとどまっており、漢字習熟について課題が見られる。また情報を整理して表現する問題の正答率がやや低い傾向(60%)にある。</p> <p>算数では「数と計算」に関する問題では、「問題場面を表す式を選ぶ」問題で正答率が98.5%に達しており、東京都平均(91.9%)および全国平均(88.5%)を大きく上回っている。一方で、グラフから読み取ったことを説明する問題では正答率が52%と低い傾向にある。これからのことから、読み取った情報を整理し、自分の言葉で適切に表現する力を高める必要がある。</p>	<p>「国語の勉強が好き」「国語の授業の内容がよく分かる」と答えた児童の割合も、全国平均を上回っており、国語の学習に対して前向きな姿勢をもっている。日常の読書習慣に関しても、1時間以上読書に親しんでいる児童の割合が都や全国の平均を大きく上回っており、活字に親しむ素地が十分に育っている。</p> <p>「算数の勉強が好き」や「算数の授業の内容がよく分かる」と答えた児童の割合は、全国平均を上回っており、算数に対する前向きに取り組んでいる。特に、「算数の問題が解けたときに別の解き方を考えようとする」という項目においても、全国平均を上回っており、算数に対して意欲的に取り組む姿勢が見られる。また、算数の記述式問題において、最後まで解こうと努力した児童の割合が都や全国の平均を大きく上回っており、粘り強く取り組む姿勢が算数の学力向上に寄与していると考えられる。</p>

(2) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
<p>・東京ベーシックドリル</p> <p>・6年生の「数と計算」領域では、満点割合が約7%、正答率約66%、「図形」領域では、満点割合が約11%、正答率約63%であり、前年度に比べ、満点割合・正答率共に低い傾向が見られる。5年生では、「数と計算領域」で約72%、「図形」領域で73%と、正答率は6年生よりもやや高いが、学年が上がるにつれて正答率が低くなっていることから、既習事項の事前確認やつまづいている児童への個別指導など、基礎基本の定着を図る時間を各学年で設定する必要がある。</p>

3 児童の学力・学習状況等の課題

・文章や資料から読み取ったことを自分の言葉で表現する力を付ける必要がある。

・学習に素直にまじめに取り組む児童が多いが、指示待ちの姿勢が見られ、主体的に学習に取り組んだり、友達と関わる姿勢を育てる必要がある。

【授業改善推進プランの活用法】

①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。

②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。

③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。

④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。

⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。

⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。

4 学校全体の授業改善の視点

・児童の問いを生み出し、主体性を引き出すことに重点をおき、教材研究を進める。

・学び合いを充実したものにするために、児童が双方向にやり取りできる学習活動を工夫する。

・多角的に児童を理解するために、学年での交換授業や行事でのT・Tでの指導を行う。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	少人数で互いに発表したり質問や感想を伝えたりする活動を多く取り入れる。				既習事項を使って自分の考えをもち、伝え合う活動を多く取り入れる。				自分の思いや願い、気付いたことなどを絵や言葉などで表現させ、伝え合う活動を重視する。		様々な音楽に触れ、楽曲の気分を感じ取りながら、音楽の楽しさに気付かせる。		児童が感覚や気持ちを大切に好きな色や形を選んだり作ったりして表現できるようにする。自分や友達の作品のよさを感じ取る。				活動中や振り返りの時間に自分や友達のよい動きに気付かせる。日常の動きにつながるような運動遊びを取り入れる。				児童個々の気持ちや考えを伝え合う活動を取り入れ、多様な考えに触れながら道徳的価値を共有する	
中学年	ペアや小グループで考えた事を交流する活動を意図的に設定する。		ICTを効果的に活用して理解を促し、ペアで調べたり、小グループで考えたことを交流したりする機会を意図的に増やす。		既習事項の定着を図るとともに、考え方を、図や言葉を用いて表現させ、互いの考えを取り入れながら思考を深められるようにする。		根拠をもって予想や実験方法を考え結果から考えたことを友達と交流しながら、まとめる学習過程を定着させる。				表現に必要な知識や技能を生かせるように友達と音楽を作ったり、表現を工夫したりする活動を多く設定する。		児童が材料や用具の基本的な使い方を知り、様々な表現方法を試し、自分や友達の作品のよさを感じながら、自信をもって表せるようにする。				学習カードや交流を通して、動きの要素や技術を言語化する経験を積み重ねる。				ペアでの活動やグループでの友達との交流を通して、多様な考えに触れながら道徳的価値を共有する。	
高学年	活動形態を工夫し、互いの考えを交流させて考えを広めたり、自分の考えを書き表してまとめたりする。		資料や情報等を適切に集め、調べたことをもとに児童が互いに学び合いながら、人々の思いや願い、工夫や努力を考えられるようにする。		答えを導くまでの過程を、相互交流することを通して、深い学びを促すようにする。		観察や実験を通じて予想や仮説を立てる力を養い、科学的根拠に基づいてより良い考えをもてるようにする。また、互いの考えを交流し、見方考え方を広げる。				身に付けた表現力や工夫を生かせるように小集団と大集団での活動を設定し、表現の幅を広げるようにする。		材料や用具の扱い方などの既習内容を生かし、自分や友達の作品のよさや美しさを認め、創意工夫しながら、さらに自分の表現を深められるようにする。		計画・実践・振り返りのサイクルを重視した学習を展開する。調理については、家庭と連携した活動を通して、実践力を高めていく。		運動の技能のポイントを見合う活動を取り入れるとともに、見合いの視点を明確にし、児童の交流を活発にする。		個人、ペア、グループなど授業の形態を工夫した繰り返し学習により、楽しく学ぶことを通して、知識や技能を身に付けられるようにする。		児童から多様な考え方を引き出すための工夫として、思考ツールやICTなどを用いて話し合いを活性化させ、道徳的価値にせまる。	